



赤石ひろ子 市議会LETTERS

発行・連絡先 日本共産党川崎市議会議員団
川崎市川崎区宮本町1 川崎市役所第2庁舎7階
TEL044-200-3360 FAX044-245-4140
登戸事務所TEL044-930-1885



facebook Twitter

www.akaishi-hiroko.jp/

赤石ひろ子の公式ブログ
QRコード



2021年第4回定例会代表質問より

今後10年間の川崎市総合計画これでいいの!?

2022年度から4年間の計画期間とする川崎市総合計画第3期実施計画、行財政改革、資産マネジメントの3素案が示されました。本市の課題として、人口減少、少子高齢化、厳しい財政環境、扶助費の増大などが挙げられ、これらを前提として、行財政改革や資産マネジメントを推進するとし、さらなる行革で福祉施策の切り捨てが明記されているのです。日本共産党市議団は代表質問で、今後9年間は増え続ける人口や、コロナ禍でも黒字決算となった財政、国の補助金でほとんどが賄える扶助費など、3点で総合計画の前提が成立しないことを指摘、公共施設の拡充や福祉サービスの充実など、市民ニーズに応える市政への転換を求めました。



21年第4回定例会(12月議会)
一般質問に立つ赤石ひろ子市議。

福田市政が打ち出す川崎市総合計画の方向性

川崎市は

現在建設中の川崎市新庁舎



人口が減少します

政令市で最も人口増加率が高く
9年間はむしろ人口が増加します。
人口が減少するのは30年後!

厳しい財政状況です

コロナで厳しいと言われた財政は
2020年度決算でも1.8億円の黒字。
減債基金も着実に積み立てられています

扶助費が増大します

扶助費(社会保障費)は増えても、
国からの補助金を活用するため、
市の負担はここ数年増えていません

だから

小児医療費助成は県下最低でも拡充しません

市営住宅など、新たな公共施設は作りません

高齢者外出支援乗車事業は見直します

特別養護老人ホームの増設は行いません

障がい者施設運営費補助は削減します

再開発、橋や道路の建設など不要不急の
大規模事業はこれまでどおり進めます

公共サービスにも民間活力を導入します

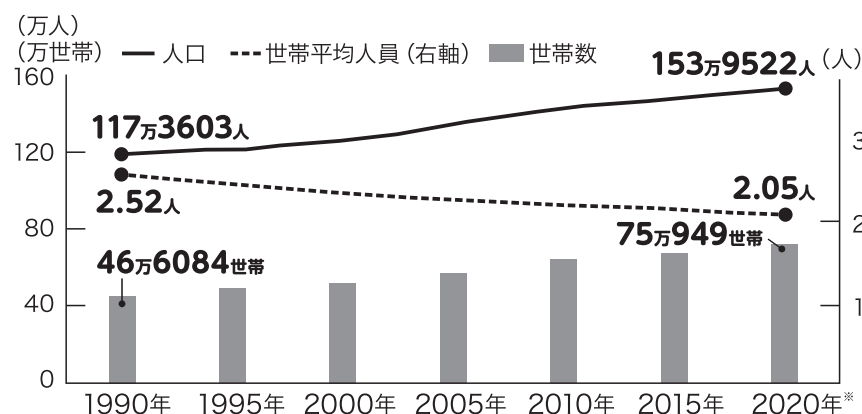
etc.

川崎市は若い世代が移り住み、子どもが生まれ、人口も増えているまち

川崎市市政要覧「数字で読み解く川崎市」より

人口・世帯数・世帯平均人員の推移

国勢調査、川崎市の世帯数・人口



ワクチン追加接種のお知らせは届きましたか?

川崎市では、2回目接種の終了から原則8か月以上経過した18歳以上を対象に、追加接種券を順次郵送しています。

接種券が届いたら...

●医療機関/接種会場を探す

同封の追加接種協力医療機関一覧や市のホームページ、コロナワクチンナビ(<https://v-sys.mhlw.go.jp>)などで、接種できる医療機関や接種会場を探しましょう。

●予約してワクチンを受ける

予約方法は2通り。

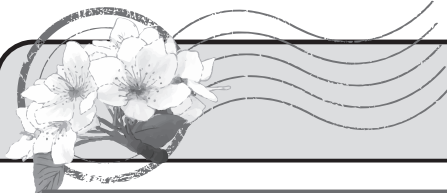
(1) 予約サイトで予約

(<https://v-yoyaku.jp/141305-kawasaki/>) 24時間対応

(2) コールセンターで予約

(0120-654-478) 8:30~18:00 (土日祝日含む)

※かかりつけ医療機関のある方は、通院の際などにご相談ください。



12月議会の赤石ひろ子一般質問より

■投票所のバリアフリーについて

高齢者や障がい者への待ち時間の休憩所や優先枠を要求

昨年の衆議院選挙、市長選挙では、当日投票所での大混雑が各行政区で生じ、多摩区でも複数の投票所で長蛇の列ができました。車椅子の方、高齢者が雨の中長時間待たされるケースも多発。今後も生じ得る状況に対して、待ち時間に座れる椅子の設置、長時間待つことが困難な方への優先枠など、投票所への合理的配慮を求めました。市からは「今後も同様の状況が生じる可能性があることを念頭に、ご高齢の方や障害のある方に対する対応について、市・区選挙管理委員会で検討する」との答弁を得ました。在宅で投票できる要介護者などの条件緩和についても求めました。

■生田緑地における土砂災害対策について

市民の安全を最優先した対策を早急に

急傾斜地崩壊危険区域や、土砂災害特別警戒区域での安全対策について質問しました。2017年の大雨で土砂約17m³が流出した生田緑地の事故現場の景観復活については、「景観に配慮した深緑色のシートを敷設し、表土の流出を防ぐため養生中。今後も適宜、斜面地の現状把握に努めながら、安全性を最優先とし、引き続き、当該地の適切な管理を行う」。また、隣接する市道に張りだし傾いている危険樹木への対応については「民家に近接する場所等においては、倒木の伐採など、引き続き適切に管理してまいります」との答弁でした。後者については昨年末に早速樹木剪定が実施されました。

さっそく要求実現!



昨年末、公道に張り出す樹木の剪定が実施されました。

更地が広がる向ヶ丘遊園駅北口。後方のアトラスタワーの対角には、25階建てのタワーマンションが建設予定。



■登戸区画整理事業の清算金について

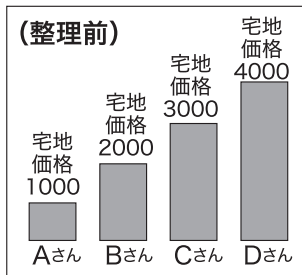
清算金が必ず発生する狭小宅地は130件 清算金の周知、対策を!

登戸区画整理事業の仮換地指定の進捗率は、2021年9月1日時点で94.1%、清算金問題がいよいよ現実のものに。区画整理事業では、従前宅地と換地とでは面積や位置が変わるため、両者の土地評価の差を金銭で処理し、全体の公平性を保つために清算金が発生します。100m²以下の狭小宅地では、公共用地のための減歩が難しく清算金が徴収されます。該当宅地は市の答弁で「件数は約130件」とのこと。現在2街区で共同ビル事業化が進められており、登戸周辺の土地評価額の上昇も予想されます。清算金徴収額が

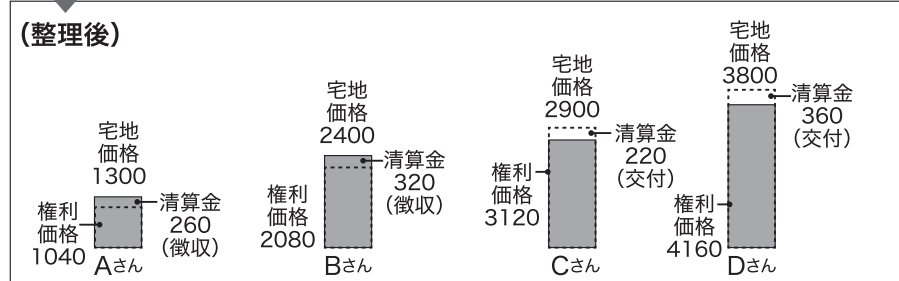
いくらになるかは地権者への速やかで丁寧な周知を求めました。

ある日突然多額の清算金を徴収されることになり困窮する事例が他都市でも問題になっています。東京都練馬区や愛知県春日井市は自治体による融資制度を創設しています。資力の乏しい地権者に対する救済措置についても求めました。

■清算金の事例



区画整理



※権利価格=整理前宅地価格×1.04
※Aさん、Bさんから徴収された清算金は、Cさん、Dさんに交付される。

「土地区画整理法」より

小田急本社交渉に参加しました

12月24日(金)、「小田急線複々線・地下二層化をすすめる会」のみなさんと、小田急本社交渉に臨みました。約1時間に及ぶ懇談で、複々線化への方向性や開かずの踏切対策等の要望に、小田急側から回答がありました。しかし、コロナ禍で電車の利用が激減し、混雑も120%程度になっており、複々線化の第一目的である混雑緩和問題は緊急課題ではないと、複々線化には消極的な回答でした。開かずの踏切についても川崎市内に11か所の課題踏切の存在は認識。しかし、立体交差化など道路にかかわることは川崎市の仕事で、市への要求も続ける必要があります。



交渉には「すすめる会」のみなさんと市議会議員のほか、はたの君枝前衆院議員も参加。

このところ急速にクロウズアップされている「ヤングケアラ」。12月議会の一般質問で再度取り上げましたが、川崎市では「第2期川崎市子ども・若者の未来応援プラン」に、「ヤングケアラ」という言葉が初めて明記されるにとどまり、実態調査や具体的支援の進捗はありませんでした。しかし、巷ではさまざまな取り組みが始まっています。

昨年末、川崎区桜本にある「川崎市ふれあい館」で、「コロナ禍と人権」をテーマにした人権尊重学級に参加。第3回はヤングケアラをテーマに副館長の鈴木健さんが講演。体験に基づきヤングケアラの事例から、発見や支援に日々の繋がりがいかに大切かを感じさせられました。困りごとに気づかない、困っていても声をあげられない。ひとりぼっちで悩んでいる人のいかに多いことか。

ところでこの日、私はたまたか道に迷い、路地にいた3人の小学生がふれあい館まで送ってくれました。地域の人たちの繋がりが、温もりを感じた瞬間でした。

(赤石ひろ子)

梨花百々



りんかひやくびやく ⑬